

令和4年度赤い羽根共同募金 公募制助成事業「チャレンジ部門・ステップアップ部門」 事業報告

採択団体：計7団体（「チャレンジ部門」5団体、「ステップアップ部門」2団体）

交付金額：計 1,050,000円

① チャレンジ部門 5団体

No.	団体名	事業名	対象者	事業について	
1	みんなの食堂	nono1 みんなの食堂	「食」に関して、様々な困難を抱える野々市市全域の多様な年代の市民	理由	「住みやすさランキング日本一」と言われる本市において、「食」に関する困難（貧困、孤食等）を抱えて日常生活の隙間に潜在化する多様な方々に対して、「みんなが楽しい、心豊かで、住み続けたい地域社会」への参画機会を創出し、実効性ある市民協働の資とする。
				内容	・市内各地区（本町、富奥、郷、押野）の公民館を利用し、「nono1 みんなの食堂」を1回/月を基本に開催する。 ・参加者へ「ミッション（役割）」を付与し、達成感・自己肯定感の醸成を図る。 ・各回の内容は季節性を考慮したものとする。（弁当、フードパントリー等）
				効果	・「食」に関して様々な困難を抱えて日常生活に潜在化する多様な方々の問題解決のきっかけとなる。 ・本企画運営に参加するボランティアの方々を通じて、「住みよい地域社会を協働して創出する気運」が盛り上がる。
				報告	①参加者を集める為、チラシ等を公民館、小中学校、児童館等に配布すると共に、年度後半からはSNSを活用しPRと募集を実施した。その効果は絶大であり、直近4回のイベントは告知数時間で50名の定員に達するようになった。 ②年度後半から、社協の紹介により現役シェフの参加を得たため調理のレベルが格段に上がり、補助金を有効にし子ども食堂としてはかなり質の高い食事を提供することが出来た。 ③「楽しく、ためになるイベント」を工夫するため、補助金を活用し部外講師を招いたり、工作材料やペンキなどを十分に準備する等が出来た。
2	本町3丁目町内会	町内会を『植育』で活性化プロジェクト	町内会の会員申込者 100世帯を想定	理由	コロナ禍でバーベキュー大会や運動会、秋祭りの獅子舞巡行が出来なくなり町内会員の関係が気薄になってきました。3年目になるコロナ禍で新規の町内会員も以前からいる会員も交流の場がない状態です。マスク有りでも気持ちが明るく、町内が明るくなる活動を開催したいです。※人と人との関係を植物を通して元気にしたいと考えたのが『植育』です。
				内容	1) 寄せ植え教室の開催：花苗・プランター・土（肥料含）を配布。講師を招き、植物の正しい育て方を学ぶ。 2) 家庭で『植育』：プランターの置き場所の検討、水やりを通じ、家族で花の成長を体験する。 3) 『植育』の成果をコンテスト：立派に育てた花の様子を撮影し、郷土資料館をフォトコンテスト会場として展示。町民による「お気に入り投票」を行う。 4) 結果を表彰：『植育』活動を頑張った人を町内会みんなで褒める。
				効果	コロナ禍に於いて休止していた町内活動を、『植育』を展開する事により町内会員同士の共通な話題が生まれ、活性化できる。家にいがちな高齢者に対しても花の世話や近所の散歩の楽しみを増やすことにもなり、健康寿命にもつながる。旧北国街道に面していることから野々市市のイメージアップに、また他の町内会活動のモデルになる事業と思う。
				報告	活動としては下記の通り成功を収めた。 ・初めての『植育』を展開する活動であり、町内会員同士の共通な話題が生まれた。「花について教え合う」「花の育ちを褒め合う」といった会話、「花を育てることを楽しむ」「花を見ることを楽しむ」といった行動などで、町内会員の笑顔(活性化)につながった。 ・今回活動を知らなかった町内会員からは、次回開催の要望があった。 ・「郷土資料館」「喜多家住宅」や企業団体内の協力を得て、旧北国街道にプランターを並べたことで、野々市市教育部生涯学習課の紹介で北国新聞社にも掲載された。
3	押野天寿会ポッチャ部	ポッチャで元気！	押野地区住民	理由	新型コロナウイルスにより活動が制限されている中、グランドゴルフ出来ない人も楽しめるポッチャを通して、子供から障害のある方、そして高齢者まで、さまざまな世代間で交流することで地域の活性化と健康維持を図る。
				内容	押野天寿会では、誰でも楽しめる競技「ポッチャ」を通して地域で交流する行事を新たに実施し、さまざまな世代間で交流を行うことで支えあう関係を醸成するとともに、地域の高齢者が運動をする習慣が身につくことで、健康寿命の延伸を図っていく。
				効果	年代を越えて誰もが楽しめる競技「ポッチャ」を通して、幅広い年代で交流をすることにより、市老人クラブの活動を幅広い年齢層にPRすることにより、加入者の増加を目指す。
				報告	押野天寿会以外の人たちと交流が少しでき、障害の方との交流でたまに毛合う気持ちを理解した。 今後ますます幅広くポッチャを通して交流していきたい。

令和4年度赤い羽根共同募金 公募制助成事業「チャレンジ部門・ステップアップ部門」 事業報告

4	「わ」	野々市市民活動団体 「わ」	「わ」会員	理由	身近にアスペルガー、不登校予備軍NSCの子どもがおり、同じような悩みを持つ保護者の方や当事者である子どもの居場所を作りたいと思った。悩みなどを口にし、同じような立場にいる方々と気持ちを共有することで、心のケアにもつながると思えたから、この会を立ち上げた。
				内容	講師の先生を招いたり、子どもの遊具の購入、材料費やマルシェに出店する際のTシャツ購入、ポスター代などに当てたい。
				効果	“悩んでいるのは自分だけではない”、“一人じゃない”、“仲間がいる”、ということを知ってもらえる。クッキング、工作は、完成させる喜びを得ることができる。
				報告	Tシャツやチラシの効果もあり、周知の幅が広がった。イベントを通し、新しい友達と会え、うれしかったとの声があった。家族以外にも自分のことを思ってくれる人がいてうれしくなった、と参加されたお子様に言われた。
5	本町2丁目町内会	2丁目食堂 チャレンジ	本町2丁目住人	理由	コロナ禍により、地域の住民同士の関わりが無くなり、高齢者は家にこもるようになり、新しい住人が引っ越しをしてきても隣同士しか付き合いが出来ていない状況を、この食堂を通してマッチングさせ、新たなつながりを作る。
				内容	子育て世帯、高齢者世帯を中心にお弁当を作って、一緒に食べたり配布を行う。可能なら、本の読み聞かせや昔の遊びで高齢者と子ども達のふれあいに実行したいと考えている。
				効果	高齢者と子ども達がつながる（顔を覚えたりetc…）子育て世帯の輪が広がる（自分と同じ年の子供を持つ母親とのつながり）高齢者世帯への配布を行う事で体調や様子などを知り、必要あれば関係先につなげることが出来る。
				報告	一人暮らしのお年寄りにはにぎやかな食事の場が楽しいと感じてくれたり、同じ子供を持つ知らないお母さん同士仲良くなったりと、少し効果はあったと思われる。

② ステップアップ部門 2団体

No.	団体名	事業名	対象者		
1	e-やん	「椿」を知って・使って・食べて笑顔事業	野々市市民 (おとな)	理由	①椿油しぼり体験を通して世代間のコミュニケーションを図りたい。昨年行なった親子では油が出てきた時、みんながパアッと笑顔になり親子の共同作業は印象的だった。珍しい搾油体験は今後も継続していきたい。 ②「椿」をテーマにして参加者同士の会話が弾む場にしたい。その会話の中から椿の利用法のアイデアも出て、より深い交流になるのではと考えます。 ①、②により、共通の楽しみをもって市民どうしのコミュニケーションを広げていきたい。市民参加の募集・開催・周知はe-やんだけでは難しいので、この応援プロジェクトに応募しました。
				内容	3回の講座を考えています。これまでの2年間はこども対象で親子の参加だったが、今回は内容も変え大人の方を対象にした。 第1回目 「椿を知る」講師による解説 野々市中央公園内の種取り作業（共同作業で収穫は楽しい時間） 第2回目 「椿を使う」第1回目で採った種をしぼり、椿油にする。その油を使い、ハンドマッサージをする。専門の講師指導で心のリラックスと皮膚の強化 第3回目 「椿を食べる」心もほっこり、笑顔になります。椿油を使ったお菓子を作る。焼く時間と冷ます時間にピラティス&ヨガを体験 参加者同士の協力と椿油の活用アイデアを出し合い、楽しい時間を提供したい。
				効果	3回の講座はすべて行動が伴うので参加者同士が協力し合いコミュニケーションを取り合うこととなります。また、ハンドマッサージやピラティスは自分の体と心を見つめることにもなります。それは相手を思いやりながら自分をも好きになることに繋がります。この講座を通して願うことです。のいち椿館には県外から来園する方がとても多くなりました。野々市市民が公園を楽しみ、来園者に椿の魅力を話してもらえたら活発で明るい笑顔があふれる町になります。
				報告	野々市市の市花木「椿」の魅力を知ってもらい、地域の歴史や自然、体験を通して長期的に地域に関わりを持ってもらうこと、そして3回の事業を通して体験することは、参加者同士の協力やコミュニケーションを促進するツールになる。コミュニケーションの取り方を学んだり、コミュニティをつくる機会を目的とした。楽しい体験を通して椿の魅力や価値を伝えたいと考え、種取り、搾油体験、料理教室の3つを企画し交流したいと考えた。 新型コロナ感染症が収まらない状況の中で、全3回無事開催出来たことが何より。この活動を通して、コロナ禍での交流の大切さを改めて感じ、体験を共有することでの共感と協力することを学び、椿の魅力が伝わったことと、市花木「椿」を通して新たな楽しみ方を知ってもらえたと思う。広い視点での人材育成やまちづくりに役立てたいと思った。

令和4年度赤い羽根共同募金 公募制助成事業「チャレンジ部門・ステップアップ部門」 事業報告

2	フォルムののシティ ののの木	ののの木 GO!GO! 事業	フォルムののシ ティ利用者、地域 のお客様	理由	・新規のつながりの減少 新型コロナウイルス感染が拡大後は、ご予約限定のイベントとして感染予防に努めてきました。そのため新規ご来店者数がのび悩んでいます。 ・利用者の発表の場 利用者が日頃から取り組んでいる活動の発表の機会を設けたいと考えています。
				内容	・誰でも気軽にご来店頂けるイベントを復活します。テントでのたい焼き販売をスタートし、出来たてあつあつを楽しんで頂き他にはない、ののの木ならではの味を考案に目立にしていきます。 ・利用者のアート作品、ダンス部発表の機会を設けます。地域団体、講師との交流、ワークショップを開催します。
				効果	・地域の方が参加しやすくなり、地域住民との交流が生まれます。 ・カフェがにぎわうことで、利用者の仕事が増え働きがいにつながります。 ・絵画や様々な作品、ダンス部の発表の機会を設けていき、来年開催される「いしかわ百万石文化祭2023」にむけて野々市市の障害者アート、表現活動を盛り上げていきます。
				報告	誰でも集えるイベントを復活することにより地域住民同志の交流や再会の機会をつくることができました。イベントの継続により地域住民、団体への周知がすすみ、色々な機会に声をかけていただく一年となった。ダンス発表会では、高齢者、留学生、地域の方と共にごちゃまぜ社会をダンスセッションで表現できた。町内会、老人会、地域、保育園との交流も活発となり、制度の枠をこえて手をつなぐ地域福祉の実現に貢献できた。